

暴力で批判を封じるベネズエラ政府 今すぐ調査を！



国連人権理事会に対し、ベネズエラの人権状況を監視・報告するための独立した調査機関を設立することにより、ベネズエラにまん延する人権侵害に対して措置を講じるよう、要請します。

※集まった署名は、アムネスティ日本でとりまとめ、要請先に提出します。Email アドレス・電話番号は提出しません。

※後日、メール、お電話にてアムネスティ日本から活動紹介のご連絡を差し上げる場合がございます。



©Sergio Ortiz

ベネズエラの市民は、深刻な経済危機による物価の高騰と極端なモノ不足に苦しんでいます。食料や医療品にも事欠く中、暴力や政治的な弾圧が国中にまん延し、2015年以降 300 万人以上が国外に逃れました。このままでは国は良くなしないと、数千人の市民が立ち上がり、デモに参加し政権交代を求め抗議しています。

しかし、政権はこの市民の抗議を聞き入れず、解決策などを平和的に話し合う代わりに、軍隊や警察を派遣して、武力と暴力で対応しています。政権に対して異論を唱えるデモ参加者は抑圧され、制裁が科されています。2019年1月には5日間のデモで900人以上が拘束され、41人が銃弾で命を落としました。当局から標的にされ殺害された人もいます。

政府はこの暴力的な弾圧に終止符を打ち、責任追及と被害者の救済を行うべきですが、それが望めない今、国際社会の介入が必要です。

	氏名	フリガナ	Email アドレス アムネスティ日本からメールマガジンをお送りします	電話番号	年代	会員/ HRS
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						